

9月の見通し リスク資産に吹く追い風

株式の評価をオーバーウェイトに引き上げ

世界経済が堅調であること、依然として主要国の流動性供給が潤沢な水準にあること、米国のインフレ率鈍化などを背景に米追加利上げ観測が後退していることは**リスク資産の下支え材料**になると見られることから、**株式の評価をオーバーウェイトに引き上げます。**

欧州、日本株式は強気

リスク資産への投資を増やす好機が到来したと見ています。

ここ数ヶ月、幾分弱含みの兆しが見られたものの、世界経済は潜在成長率を上回る成長を遂げています。

加えて、主要国の金融当局が緩和的な金融政策の縮小を開始するまでには、今しばらく時間の猶予があると考えられます。

また、世界の流動性環境は未だ緩和的であり、2017年だけで2兆ドル弱が新規に供給される見込みです。

こうしたなか、相場が幾分調整していることから、**バリュエーション(投資価値評価)面では値頃感が出てきており、特に欧州やアジア株式には年末に向けて上値余地がある**と見ています。

景気先行指数からは、世界経済が堅調に推移していることが示唆されます。2017年第1四半期でピークアウトしたものの、景気先行指数は依然として2014年1月以来の高水準にあります。購買担当者景気指数(PMI)のデータからは、米国と欧州の製造業が再び勢いを取り戻しつつあることが示唆されます。

中期的には景気回復シナリオを阻害するものは何もないと考えており、2017年の世界経済は+3.2%の成長が達成可能だと見ています。これは、2016年の+2.7%、長期的な潜在成長率である+2.8%を上回る水準です。

ユーロ圏では、小売売上高や消費者信頼感指数が長期平均を上回る水準まで上昇するなど、2017年後半に入っても景気の改善が続いています。

新興国全般に目を向けると、労働市場が堅調である他、通貨の値動きも安定しているため、消費者信頼感指数が1993年11月以来の水準まで上昇しています。同時に、インフレ率は+3%程度と歴史的な低水準にあり、各国中央銀行には金利据え置きあるいは利下げと景気下支えのために金融政策面で取り得る選択肢が増えています。

米国株式は割高な水準

米国では、2017年4-6月期決算を発表した企業のうち、80%弱が市場予想を上回る業績を発表した他、増益率は+11%に達するなどファンダメンタルズは非常に堅調です。

それにも関わらず株価が軟調な理由の一つは、**割高な水準にあるバリュエーション**といえるでしょう。

さらに、米国の景気見通しはその他地域と比べてより不確実性が高いと見ています。米国の景気先行指数はモメンタムが鈍化しており、銀行貸し出しも減少に転じています。FRBはバランスシートの圧縮ペースを緩やかにし、年内の追加利上げを断念することを強いらられるかもしれません。

当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。